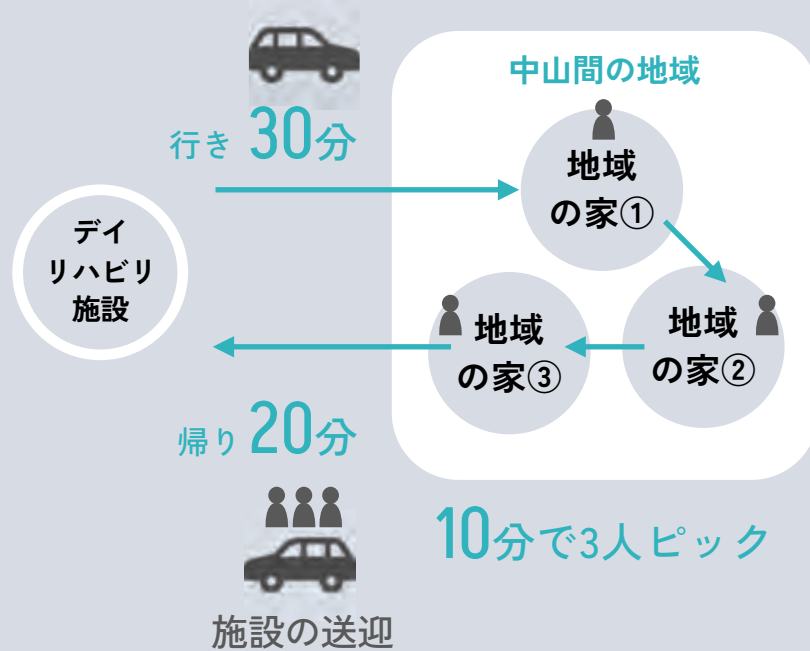


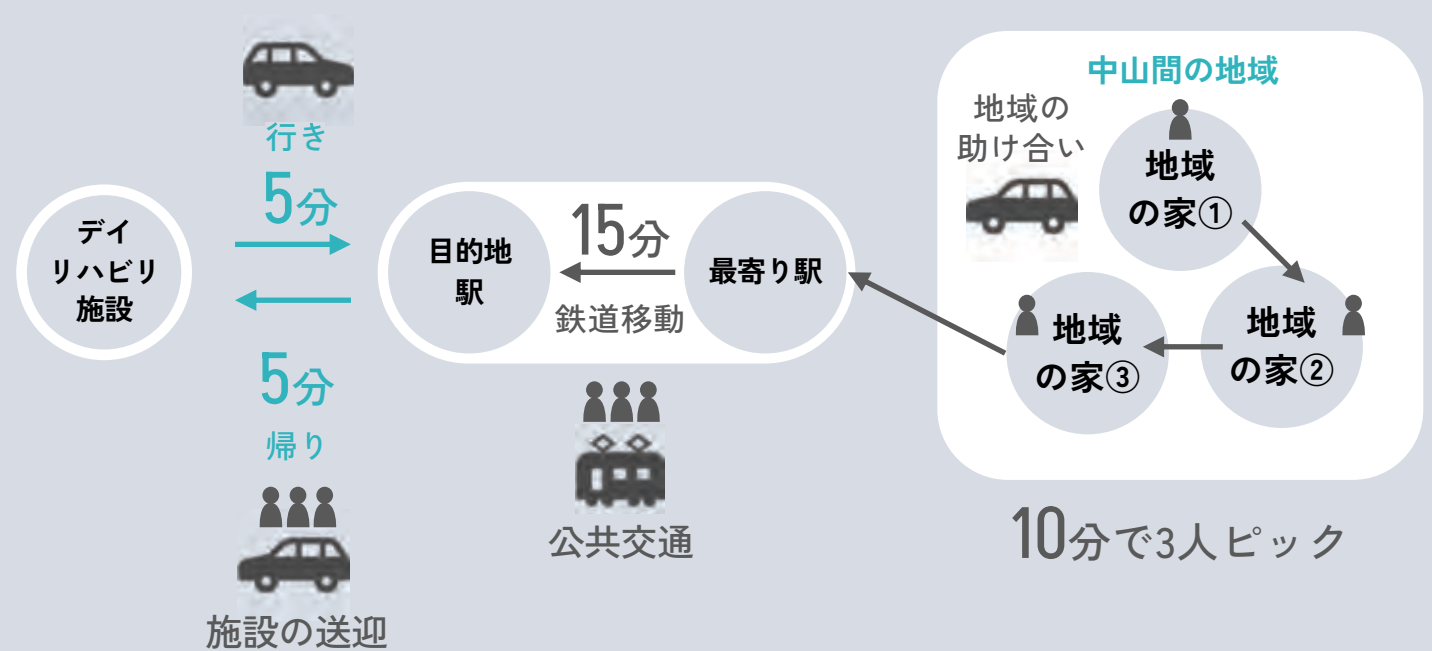
デイリハビリ施設の送迎が $\frac{1}{6}$ に

従来の施設送迎



計60分

今回実験した送迎



計10分



「地域鉄道」と「介護送迎」の連携で未来を創る：でかけレール×助け合い交通 実証プロジェクト

富山県黒部市：高齢者の移動と地域鉄道の活性化を目指すハイブリッド移動モデルの実証実験

地域の「2つの大きな課題」

介護施設の送迎 が限界に



介護職員の労働時間の
約**38%**が送迎業務

8時間労働のうち約3時間が送迎に
割かれ、本来の介護サービス提供を
圧迫。



ドライバー不足・コスト増

ドライバー不足やコスト増により、
運方に住む高齢者がデイサービス
を利用できない問題が発生。

利用者が減り続ける 地域鉄道



人口減少と車社会化で、地域の重
要な足である鉄道の維持が困難
な状況。

解決策：新しいハイブリッド移動モデル

3段階の連携で、自宅から施設までをシームレスに
地域住民・鉄道・介護事業者が連携し、ドアツードアの移動を実現します。

ステップ1: 自宅 → 最寄り駅 (地域住民による「助け合い送迎」)



 **富山地方鉄道**



ステップ2: 駅 → 目的地駅 (富山地方鉄道)

 **「移動＝リハビリ」**
という新発想
ウェアラブル端末で移動中のデ
ータを収集し、公共交通の利用が
健康増進に繋がることを証明。



ステップ3: 目的地駅 → 介護施設 (施設の共同送迎)

実証実験の
具体的な目標値

 介護施設の
送迎コスト削減率
**30%以上
削減**

 利用者の
移動時間短縮率
**50%以上
短縮**

 地域鉄道の
利用者増加率
**20%以上
増加**



研究員
40
名以上

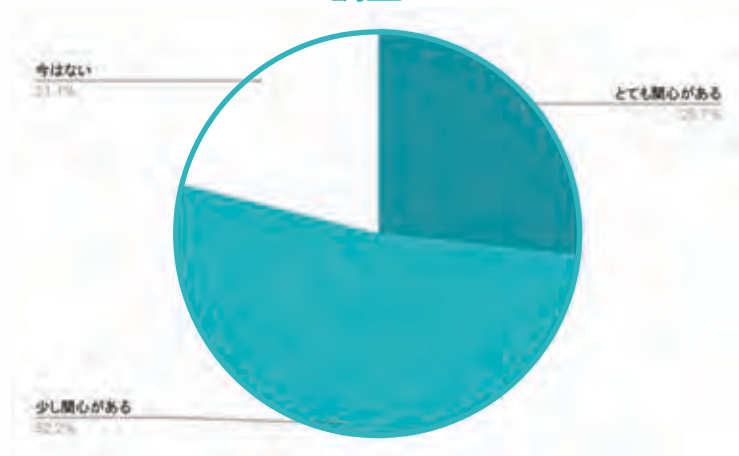
10代
から
70代
多様な参加

アンケート結果

今後の活動についての関心度（調査A,B,C全ての回答）

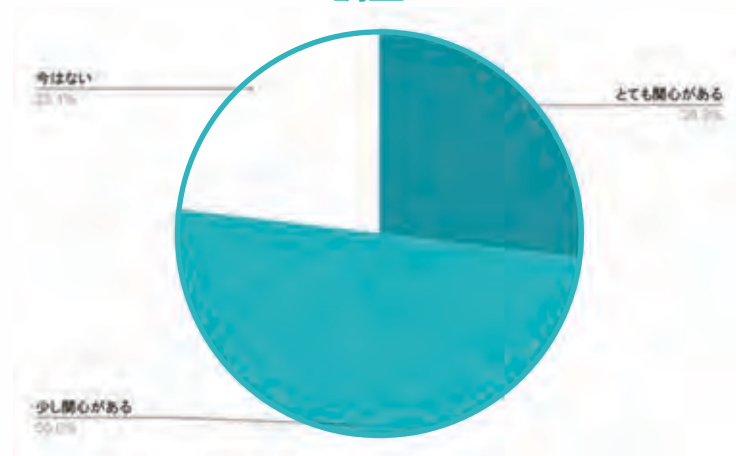
全体の8割以上がこの活動に「関心がある」と回答

調査A



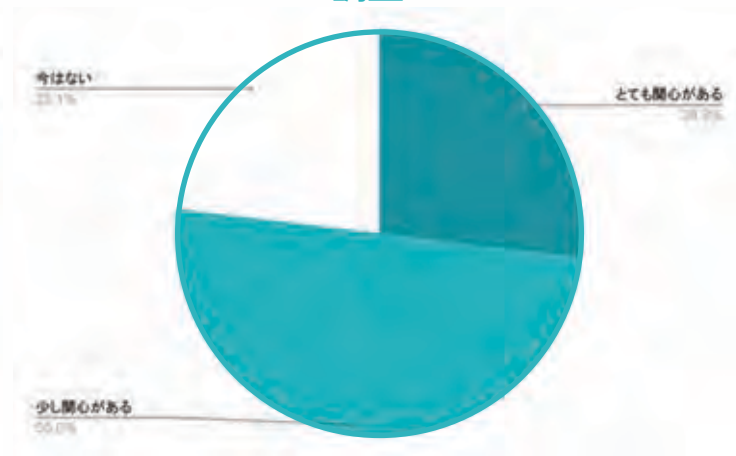
マイクロプロジェクト①
「くろべ“乗らず嫌い”脱出大作戦！」

調査B



マイクロプロジェクト②
「でかけルール × 助け合い交通」

調査C



調査Cマイクロプロジェクト③
「“おたがいさま”で繋がる！
ココロネット応援大作戦」

● とても関心がある ● 少し関心がある ○ 今はない

課題可視化における 5つの気づき

ハードル

チャレンジ

発見・結果

1

ワークショップの付箋だと拾える声が限定的

複数ツールを組み合わせ
幅広く声を拾い
AIを活用して大量の情報を分析

課題の文脈や行政の認識も取り入れ、偏りのない課題抽出を行った

2

新たに福山が増えたことで地域の固有性をどう表現するかが課題だった

福山と黒部で課題の違いを意識してマップに反映

課題のカテゴリーやループの文言、課題同士の接続を黒部と福山で違う表現にした

3

課題に対してどんな打ち手が紐付けられるかが2年目で求められていた

1年目で出した課題に対して「マイクロプロジェクト」をつなげた

1つの課題に対して複数の解決のアプローチがある

4

本当にその課題が深刻なのか？その課題は確かにあるものかわからない

課題に対して根拠となる数字や公的資料を参照できるように

第三者が見ても、課題の深刻さなどの解釈のブレが軽減された

5

課題がどれだけ解決されたか評価ができない

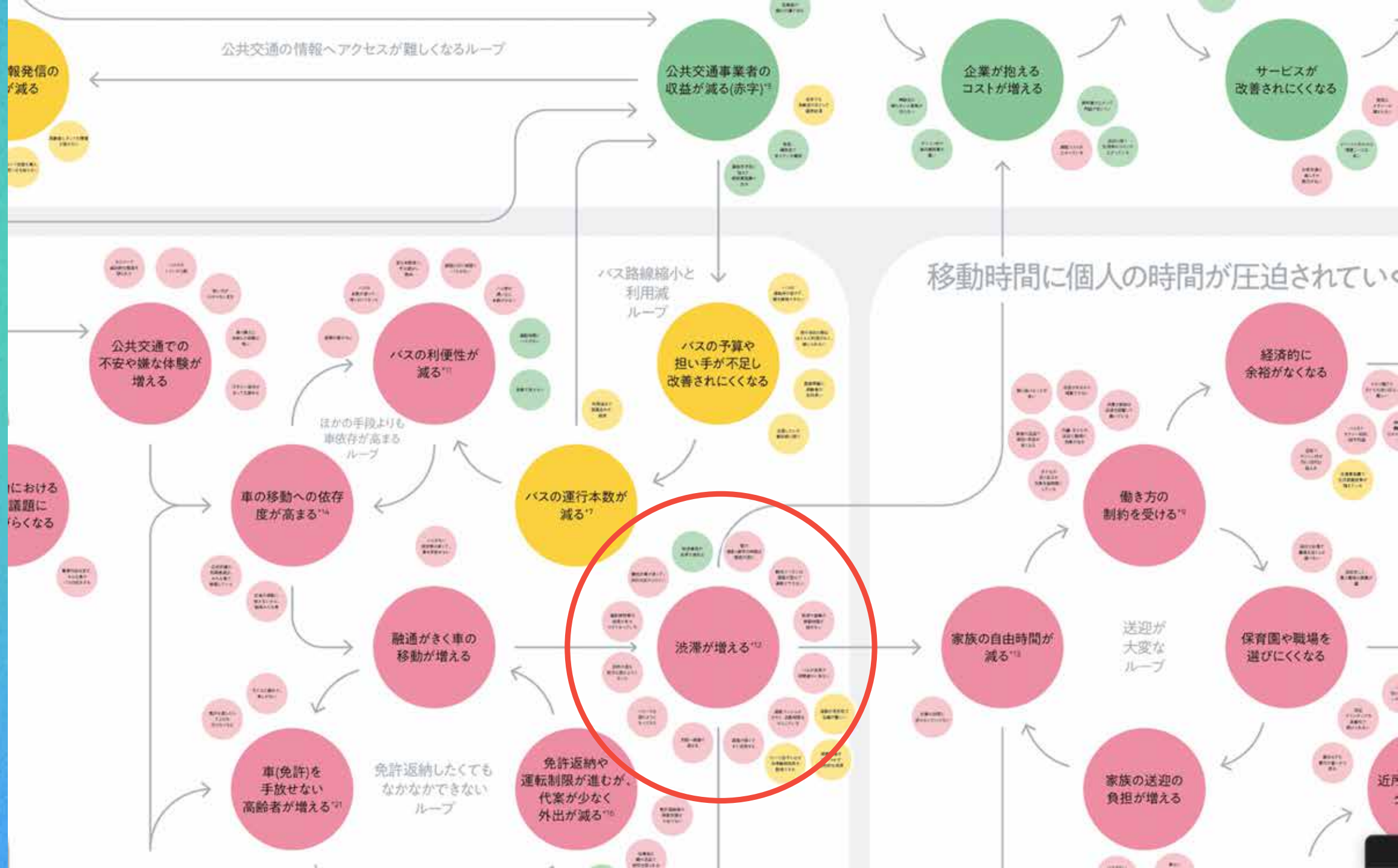
課題の変数を明確にして主語と動詞を分けた

指標を特定しやすくなり、より評価しやすい仕組みにできた

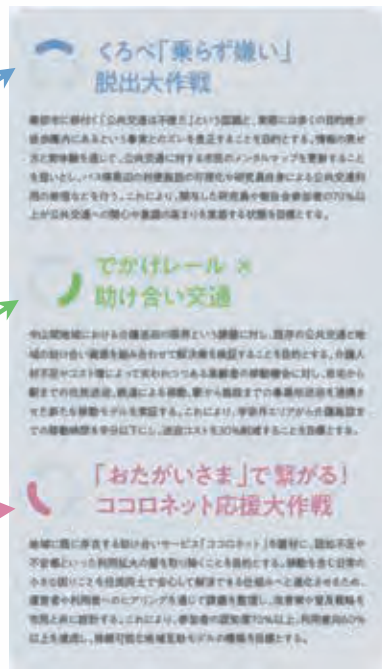
1



ボイスレコーダーで音声を集め、AIで分析



3 マイクロプロジェクトと課題をつなげる



例えば

くろべ「乗らず嫌い」脱出大作戦と「おたがいさま」で繋がる！ココロネット応援大作戦が該当



どれも該当していない



11/18のモビLABでみなさんにシールで課題を紐付けていただいた結果を課題マップに反映しています！



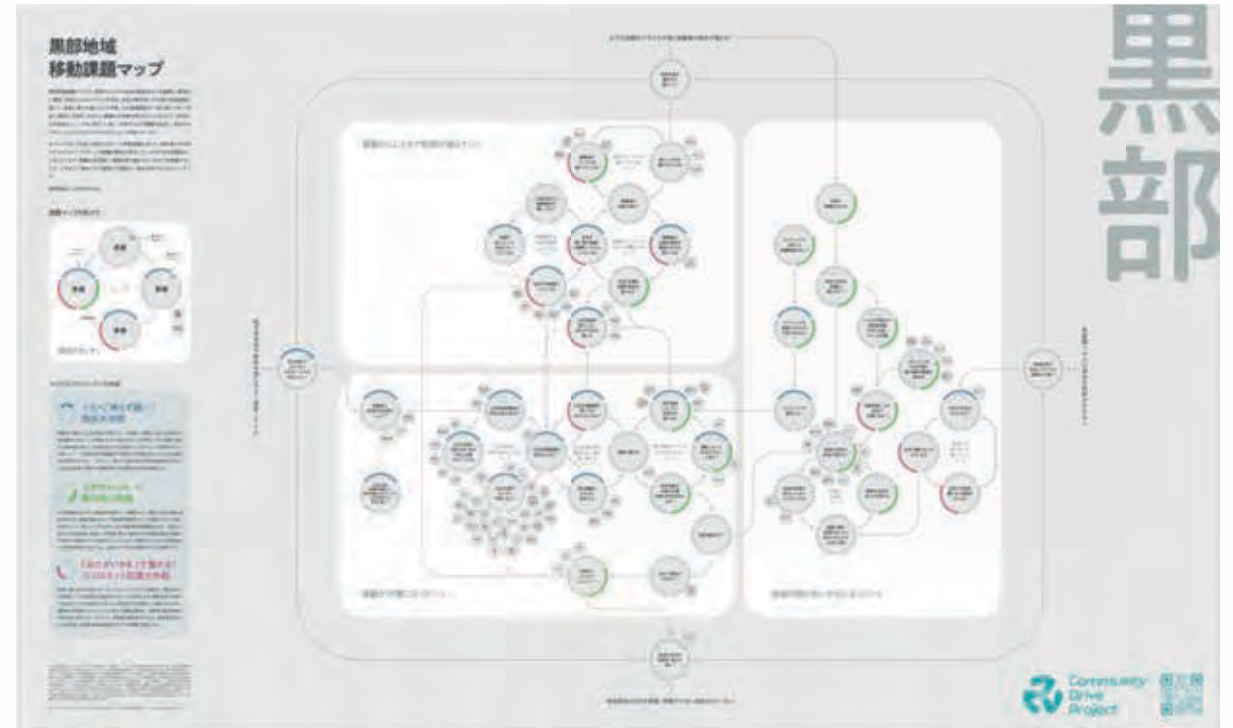
前年との比較

昨年度

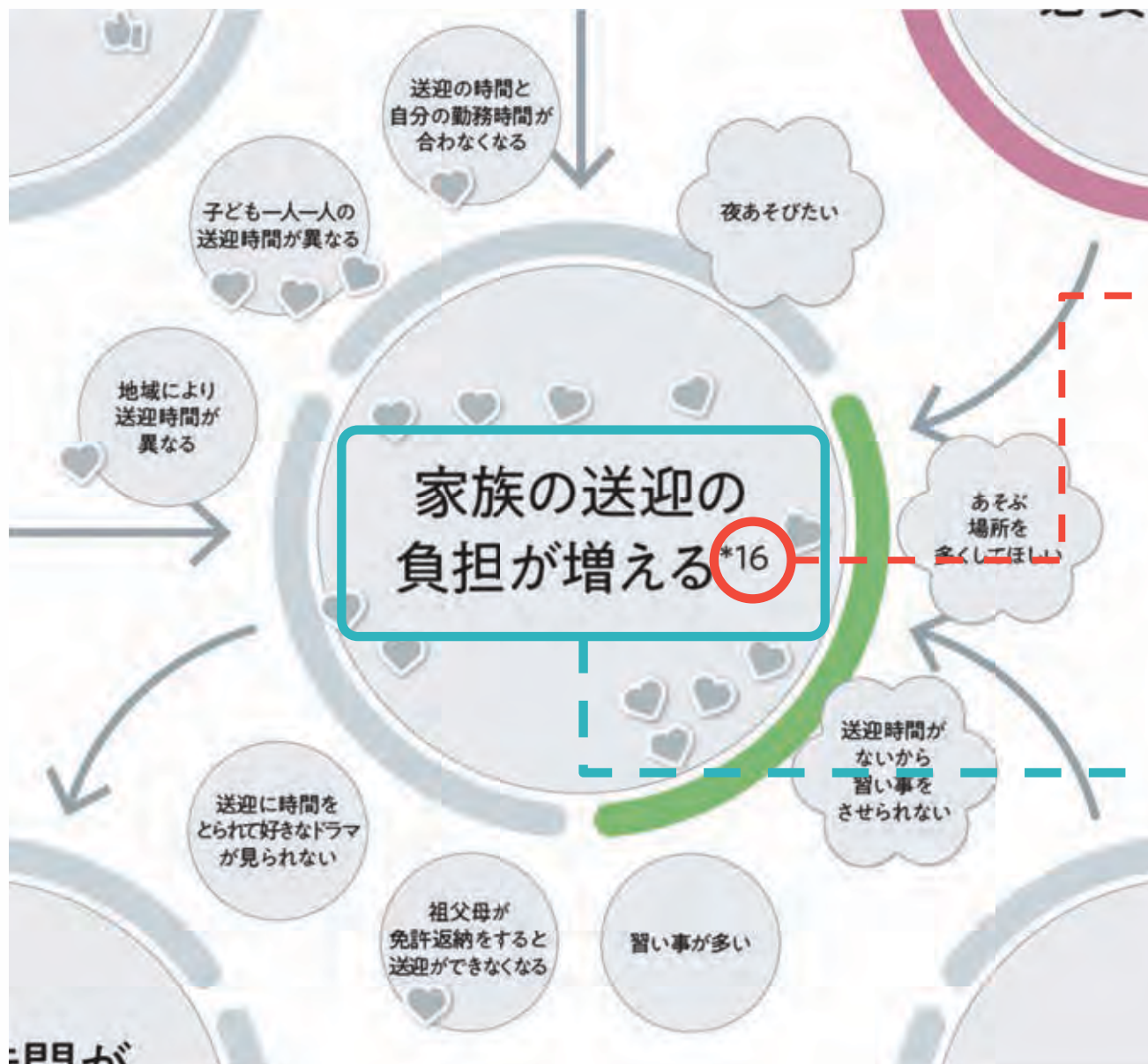


地域のどの立場に
どんな課題があるのか？を整理

今年度



自分たちでどの課題に対して
アクションを起こせたか？を整理



4

課題の根拠の提示

*16. 通勤以外の移動の15%は自家用車送迎 / *

5

変数と変化を表現

変数

家族の送迎の負担

変化

増える

介護事業者（Juicy）ヒアリング

■活動内容

- ・ Juicyの一週間の曜日ごとの移動をヒアリング
- ・ 介護送迎の一日のサイクルは、午前と午後一日2回の介護補助
- ・ 送迎に時間がかかる山間部にお住いの方はお断りしている
- ・ 介護事業者同士の連携がほとんどない
- ・ 体調によって当日キャンセルされる方が出るため、その都度ルートが変更が必要になる
- ・ 送迎が無くなると減収になる
- ・ ケアマネージャーさんが介護レベルを判断し、介護事業者を紹介している

介護サービスが受けられるかは地域差が生じている

厳しい介護送迎の実態

スケジュールが立てにくい

⇒介護事業者の負担を増やすことなく、サービスの拡充はできないのか？

住民の移動を可視化したモビ地図の活用

可視化

調査

Step1 調査



公共交通のルート
住民の移動ルート
介護送迎のルート

Step2 分析



介護送迎のルート



公共交通のルート

×



これまで送迎できなかった方リスト



住民の移動ルート

さまざまなルートを重ね合わせる

Step3 仮説



仮説を見つける

ルートの重ね合わせ

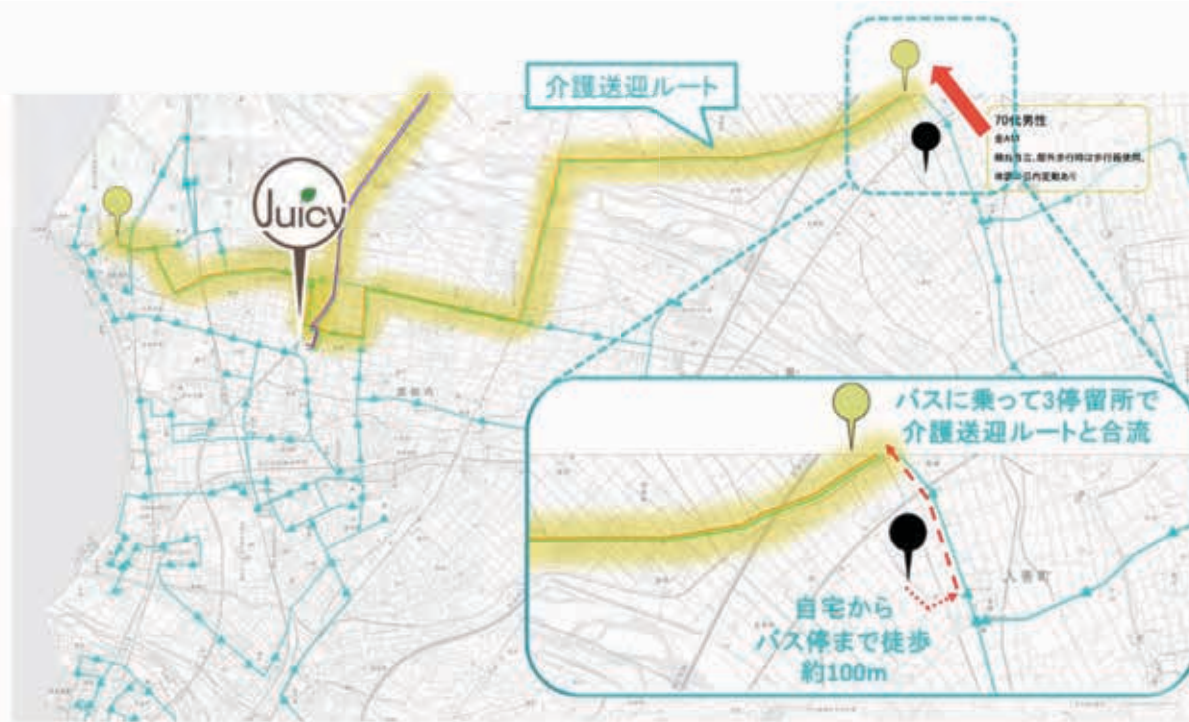


可視化



調査で得た情報をモビ地図として重ね合わせてみる

送迎の組み合わせ



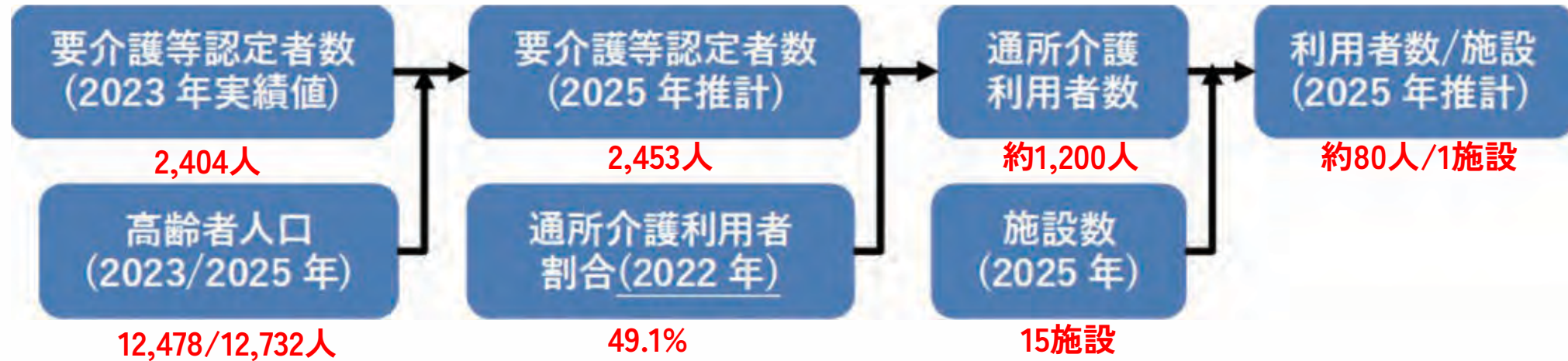
公共交通(鉄道・バス)と介護送迎の組み合わせ



住民の移動と介護送迎の組み合わせ

データ分析：黒部市のデイサービス利用者と施設数

黒部市における通所介護（デイサービス）の利用者数を推計し、市内施設数との関係を定量的に整理した。



2025年の要介護等認定者数2,453人(推計値)に通所介護利用率49.1%を適用(通所介護+通所リハビリテーションの利用者割合)すると、通所介護利用者数は約1,200人と推計される。

これを市内のデイサービス施設数15施設で除すると、**1施設あたりの利用者数は約80人**となる。

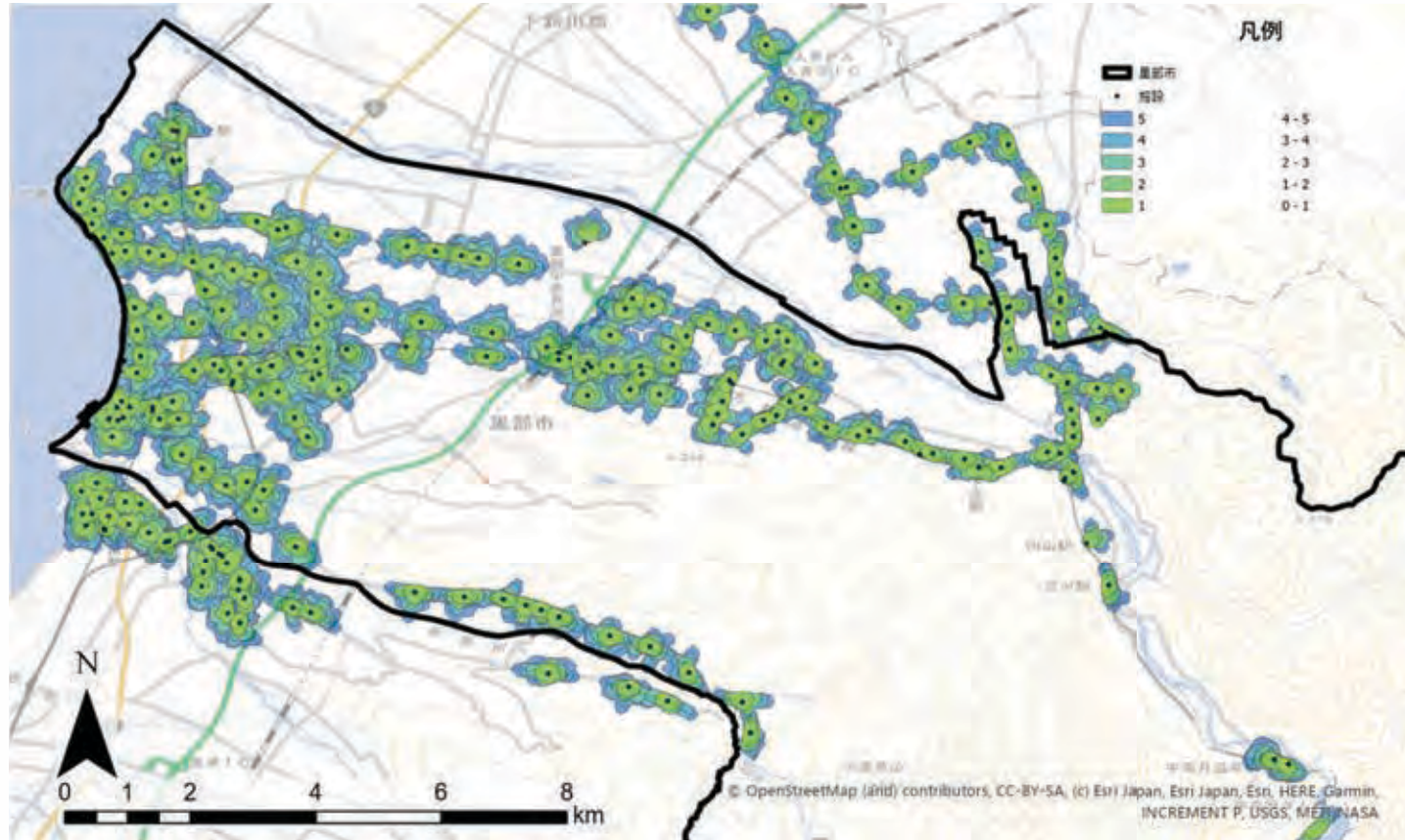
出典

- 1) 黒部市HP：黒部市の人口の推移：<https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?servno=345>
富山県HP：令和5年富山県の人口：https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/jinko/index_r05.html
- 2) 黒部市「黒部市高齢者福祉計画 令和6年度～令和8年度」：<https://www.city.kurobe.toyama.jp/attach/EDIT/041/041585.pdf>
- 3) 厚生労働省 国民生活基礎調査 令和4年国民生活基礎調査 介護 介護を要する者数、現在の要介護度の状況・介護サービスの利用状況・利用した介護サービスの種類(複数回答)別
<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0002041144>
- 4) 介護サービス情報公表制度(2025年6月末)：https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-kouhyou_opendata.html

データ分析：公共交通の徒歩圏内に居住する住民の推計

黒部市において、徒歩5分圏内に居住する人口を推計

アクセス可能人数(鉄道駅+バス停より徒歩5分圏内)



徒歩5分圏内

人口	: 約24,000人/39,638人	60%程度
15歳未満人口	: 約 3,000人/ 4,645人	65%程度
15歳以上65歳未満人口	: 約14,000人/21,761人	64%程度
65歳以上人口	: 約 7,500人/12,517人	60%程度
75歳以上人口	: 約 4,000人/ 6,602人	61%程度

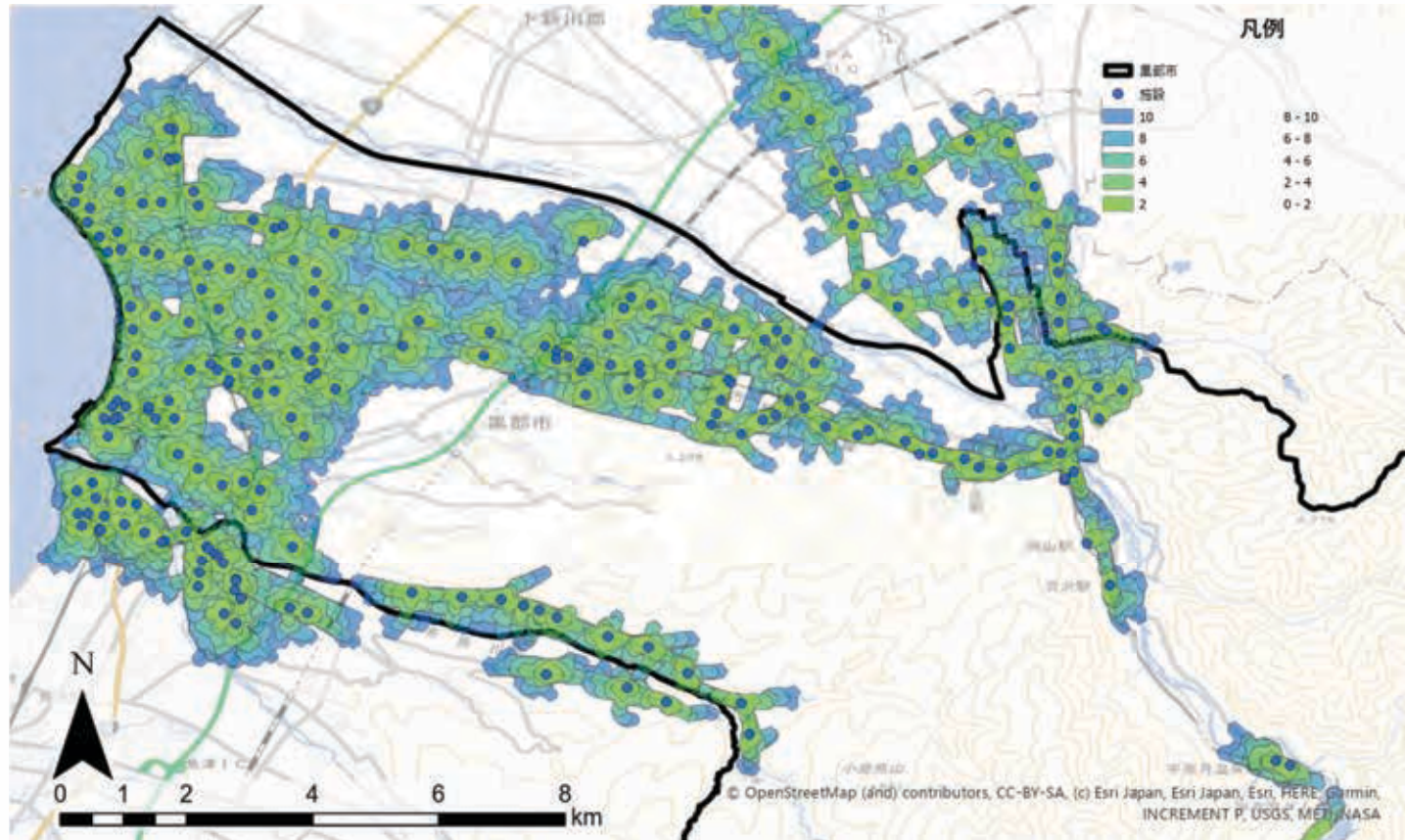
鉄道駅+バス停で60%程度が公共交通にアクセス可能なエリアに居住

→公共交通を組み合わせた場合デイサービス等の提供範囲が広がり、潜在的な利用可能人数が大幅に増える

データ分析：公共交通の徒歩圏内に居住する住民の推計

黒部市において、徒歩10分圏内に居住する人口を推計

アクセス可能人数(鉄道駅+バス停より徒歩10分圏内)



徒歩10分圏内

人口	： 約32,000人/39,638人	82%程度
15歳未満人口	： 約 3,800人/ 4,645人	82%程度
15歳以上65歳未満人口	： 約18,100人/21,761人	83%程度
65歳以上人口	： 約 9,800人/12,517人	78%程度
75歳以上人口	： 約 5,200人/ 6,602人	79%程度

鉄道駅+バス停で80%程度が公共交通にアクセス可能なエリアに居住

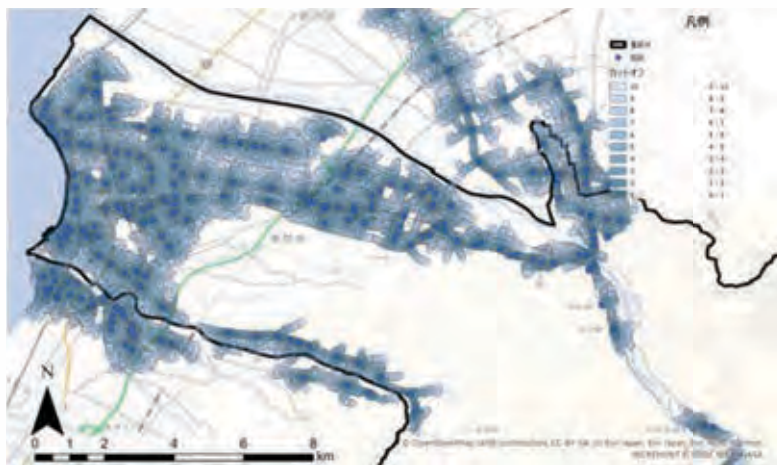
→公共交通を組み合わせた場合デイサービス等の提供範囲が広がり、潜在的な利用可能人数が大幅に増える

日建設計の気づき①

ワークショップで参加者の移動を可視化したことによって、公共交通を利用するきっかけになった。（データが人の活動を後押しした。）

→JUICYの移動と住民の移動を重ね合わせたことで公共交通利用の可能性が見え、実証実験へつながった。

→地方都市版Walkable Cityとは、誰もが駅やバス停まで歩ける街かもしれない。



セクターの違うコミュニティドライバー同士の関係性が変化

いままでの議会では

行政はやって
くれない

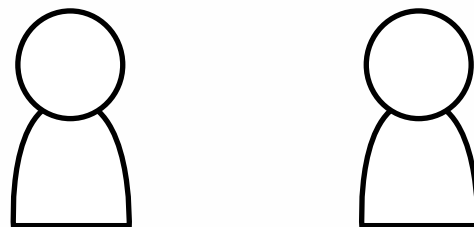
住民は何も
わかってい
ない



モビLABでの交流して

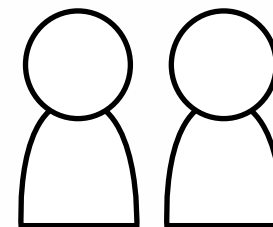
こんなこと
を考えてい
たんだ

こんなこと
に困ってい
たんだ



現在

一緒に移動課題に
立ち向かう仲間！



主体的な関わり への変化

自らスマホ入力が苦手な方に対して、丁寧にヒアリング

モビLAB@黒部基地の研究員でCTO(チーフ当事者オフィサー)の若井さんは、地域の皆さんへのヒアリング調査に当事者である私が行った方が、同じ年代の方に話を聞きやすいから参加する！と当日会場に。

スマホで入力が苦手な方に、丁寧に対話をしながら思いや、ぼろっと出てくる本音などを聞き取りされていました。アンケート結果も重要だけど、現場で聞いた声はホントにリアリティがあるし、このインプットが大事だねとお話しされていました。

コミュニティドライブプロジェクトが目指す人材「コミュニティドライバー」は、地域の移動課題解決を主体的に考え、動いていく人と定義しています。まさに、若井さんはコミュニティドライバー！！

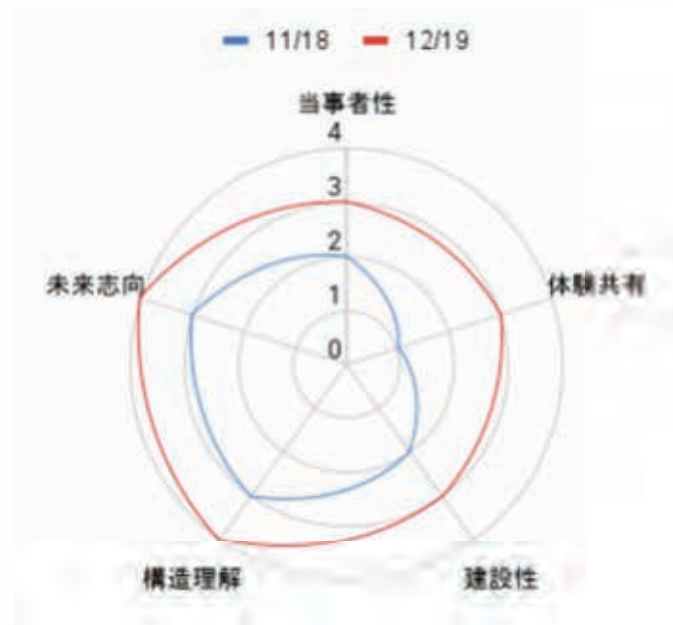


主体的な関わりへの変化

音声解析に基づく対話の成熟度変化（3事業比較）

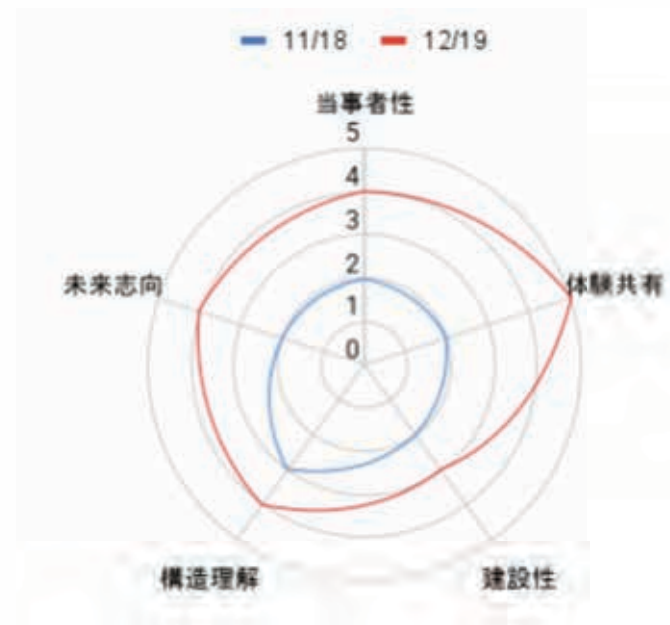
※本分析は、Liquitousが提供するLiqidの対話分析手法を用いて実施しています。
数値は、音声解析により発言内容の傾向を5段階で相対評価したものです。

11/18→12/19にかけて「自分ごと」「体験」「次の行動」に関する発言が増加



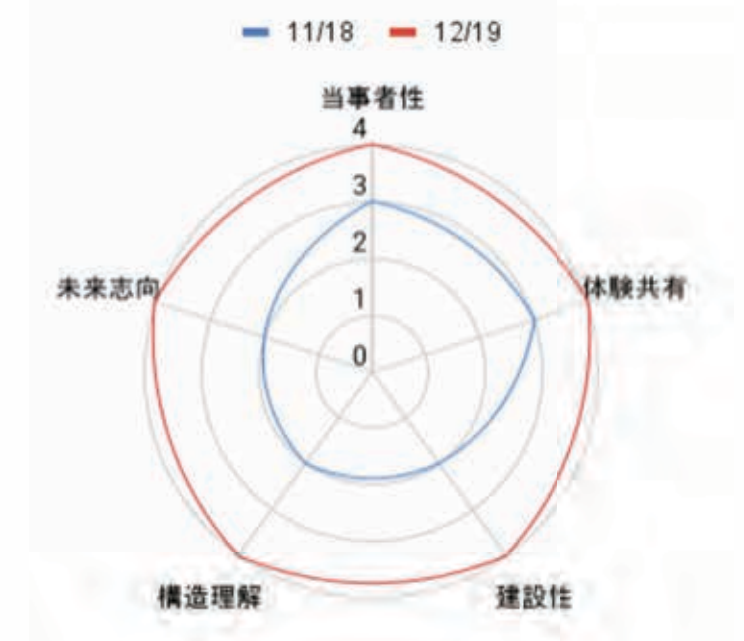
マイクロプロジェクト①
「くろべ“乗らず嫌い”脱出大作戦！」

→整理・理解から、
体験への入り口を作った



マイクロプロジェクト②
「でかけルール×助け合い交通」

→体験を通じて、一気に
”自分ごと化”が進んだ



マイクロプロジェクト③
「“おたがいさま”で繋がる！
ココロネット応援大作戦」

→善意から、続けるための
設計思考へ

静かにフェイドアウトして
ガーデニングなぞ楽しみながら
80代をむかえるのかと思っていたが

モビラボで 人生のむかう方向が ガラッとかわった

参加者の声より

移動のしにくさで制限が増えていく

事業者が
サービスを
提供しつづける

住民が
買い物や医療・
介護等にアクセス
しづらくなる

Step1



Fukuyama



福山市でコミュニティドライブプロジェクトを推進



かわむー

福山市地域おこし協力隊OG／理学療法士

福祉メディア運営、医療福祉の事業開発
ヘルスケアスタートアップ伴走支援

鞆の浦地域を中心に福祉の文脈で活動



ぐっち

iti SETOUCHI 館長／プロジェクトディレクター

公共空間や遊休不動産の活用、公民連携事業の開発
エリアリノベーション、人と場所の関係性のデザイン

福山駅周辺でまちづくりの文脈で活動

地域特性と事前の課題感

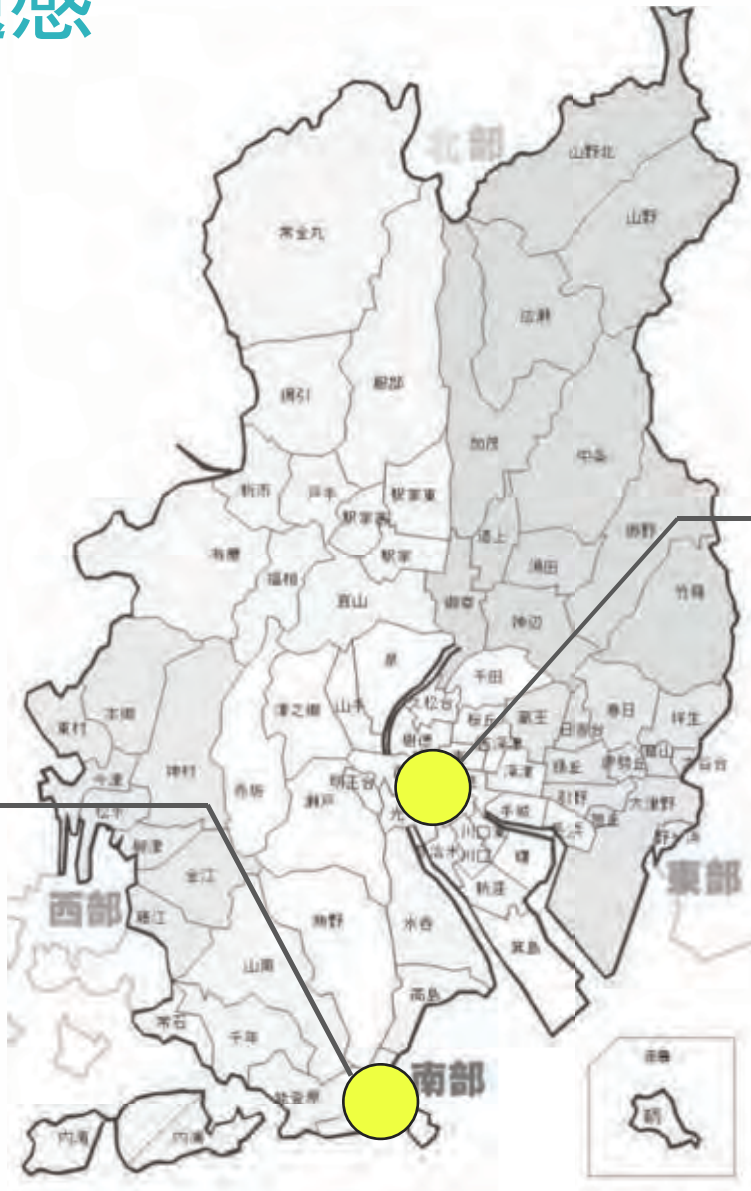
坂道や石畳が多い！



鞆の浦

高齢化率約50%／独居・老老介護

古い街並み（坂道、階段、石畳）が残る港町であり観光地でもある。「商店」や「病院」が姿を消し、買い物や通院に困る人や中高生の通学・子どもの塾の送迎問題もある地域。福山駅周辺まで車で30分程度。



福山駅前エリアでは、中心市街地の衰退が進み、街中の空洞化によって人の回遊が生まれにくくなっている。場があるだけでは活用されず、人の往来に加えてモノ・コト・情報の流れが必要。福山駅前は、人中心で歩いて楽しい、働く・住む・にぎわいが重なるまちを目指す。

福山駅周辺

目的が集中しすぎて
交通の問題が多発



活動まとめ（2025年度CDPJ福山）

全体

活動への関心が深まった人

96%

参加者アンケート

コミュニティドライバー

10名以上

一緒にCDPJやると言ってくれた人

対話

対話の場への参加

158名

ワークショップ・ヒアリングなど

参加者の年代

20代～70代

小学生からご年配の方まで

調査

集まった課題の数

1,320件

Liquidでの投稿数

企業向けヒアリング調査

10件

企業向けヒアリング

可視化

可視化された課題の数

252件

マップへの課題掲載数

福山市でどんな気づきがあったか？



瀬の浦

**住民主体での
創意工夫がすでに
存在している**

住民自らが生活道の修繕を行うなど、行政に頼るだけでなく、地域住民同士の協力によって支え合いの暮らしが育まれている。



北エリア

**産業集積に対し、
地域の仕組みが
追いついていない**

通勤渋滞や通学路の安全問題が顕在化する一方、自治会離れも進み、地域運営の再設計が求められている。



駅前エリア

**働く層の集中で、
移動が常に制約条
件になっている**

通勤・通学・送り迎えがピーク時間に重なり、幹線道路では慢性的な渋滞が発生。大雨時の冠水もあり、日常移動の不安定さと脆弱さが際立っている。



駅前エリア

**バス運営は
人材不足で限界が
見え始めている**

運転手不足と高齢化が進み、運行管理と運転手を兼ねるケースもある。管理と運営を行政と民間で分担し、車両管理の一元化を行うなど、抜本的な運用見直しの余地がある。

福山市で実施したプログラム



キックオフワークショップ

7月17日(木)



企業向けWS

9月9日(火)



中間報告

11月5日(水)

7月18日(金)

公共向けWS



9月27日(土)

住民向けWS



1月31日(土)

2025年度 報告会





 Community
Drive
Project
Fukuyama

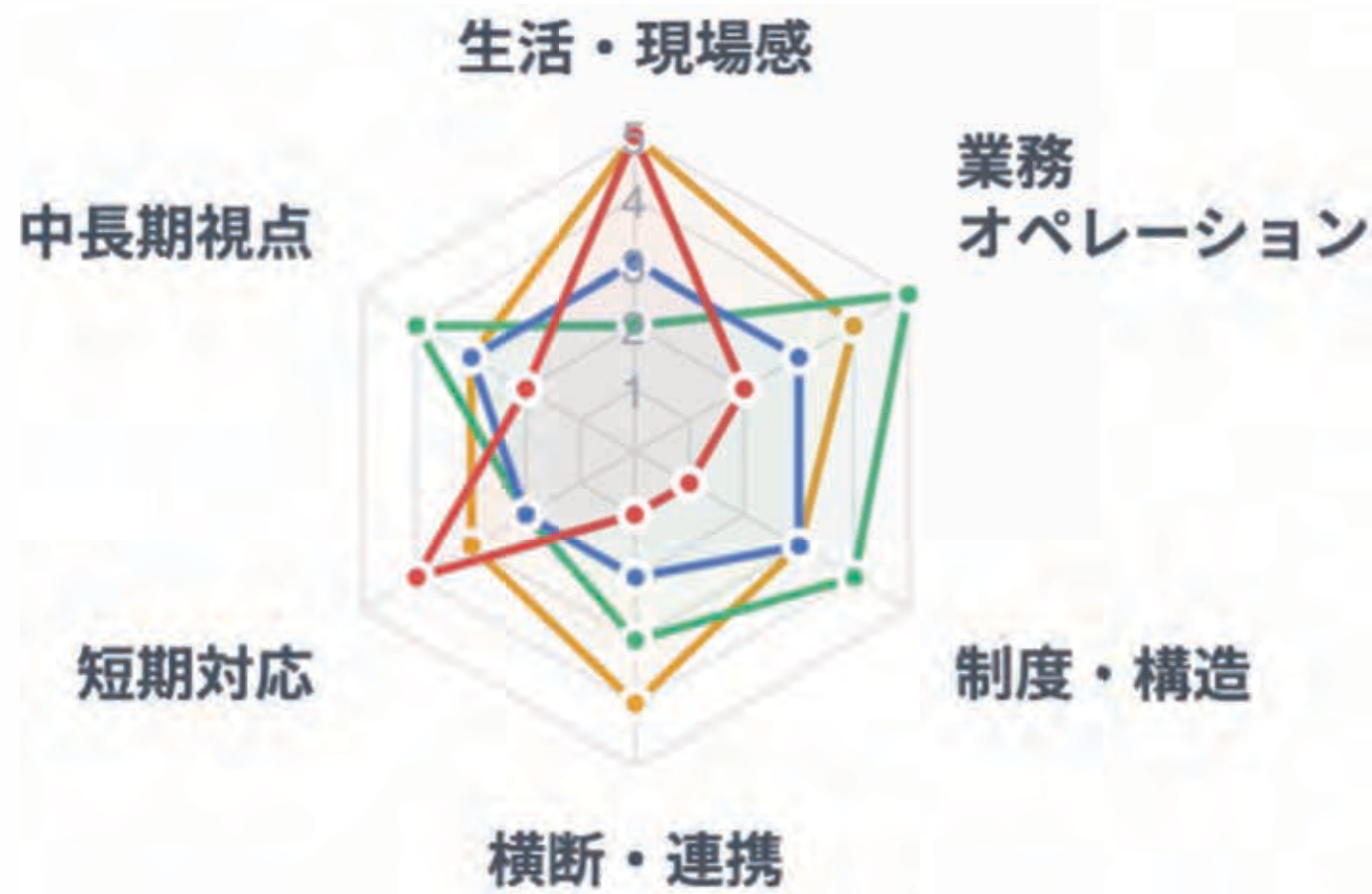
延べ参加者数

147 名



第1位:夜は街灯が少なく真っ暗で、移動が不安。
第2位:東京で運転を試みたが、すぐに諦めてペーパードライバーになった。
第3位:コミュニティ内で送迎を頼み合えばいいが、現状は難しい。

調査：ボイスレコーダーによる分析



他にも様々な調査を行ってきました

企業の方への
個別ヒアリング

メンバーによる
フィールドワーク

SNSを活用した
アンケート調査

調査件数

10件

移動課題を感じている地元の企業や活動を行っている方を中心0.5～1時間のヒアリングを実施し、ワークショップでは引き出しきれなかった課題を発見。



総リーチ数：114,435
クリック数：5,117

実施期間：
2025/10/16～10/31、12/9～12/31

即係指(一)由人口遷出而引致財產流失；



初回から最終回に向けて参加者が3倍以上に！



参加者

12名

初回

2025/7/17



参加者

39名

最終回

2026/1/31

公共的な移動

鉄道やバス、タクシーなど、
制度・規制・補助がある移動

公共・企業の共創
実験的事業

公共・住民の共創
実験的事業

共創でつくる移動

多様な主体が対話を重ね、資源と関係性を
つなぎ直して共に設計する新しい移動

企業や民間の移動

企業や民間団体が業務や物流のために保有・
活用してきた仕組みによる移動

生活のための移動

自分や家族、近隣住民の送迎や助け合いによ
って成り立ってきた日常的な移動

企業・住民の共創
実験的事業

コミュニティドライブプログラム



人材の発掘と育成・機運醸成

活動を継続させるために大切なこと

共創の基盤

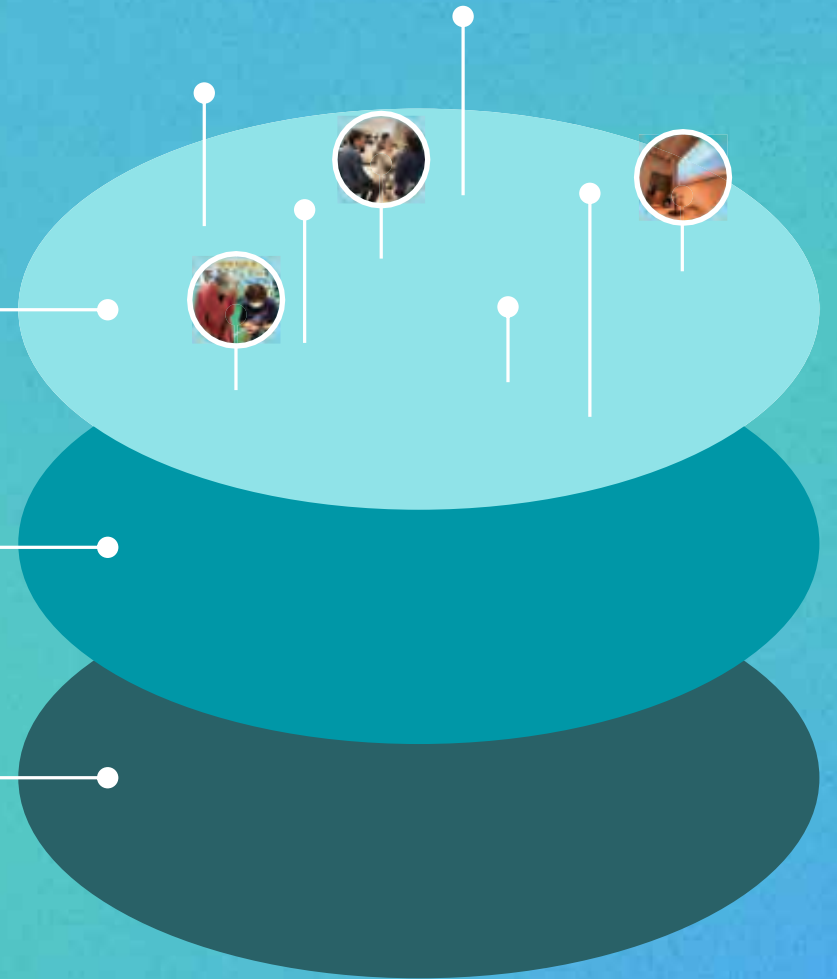
継続的な地域での活動

地域の移動はみんなで作る

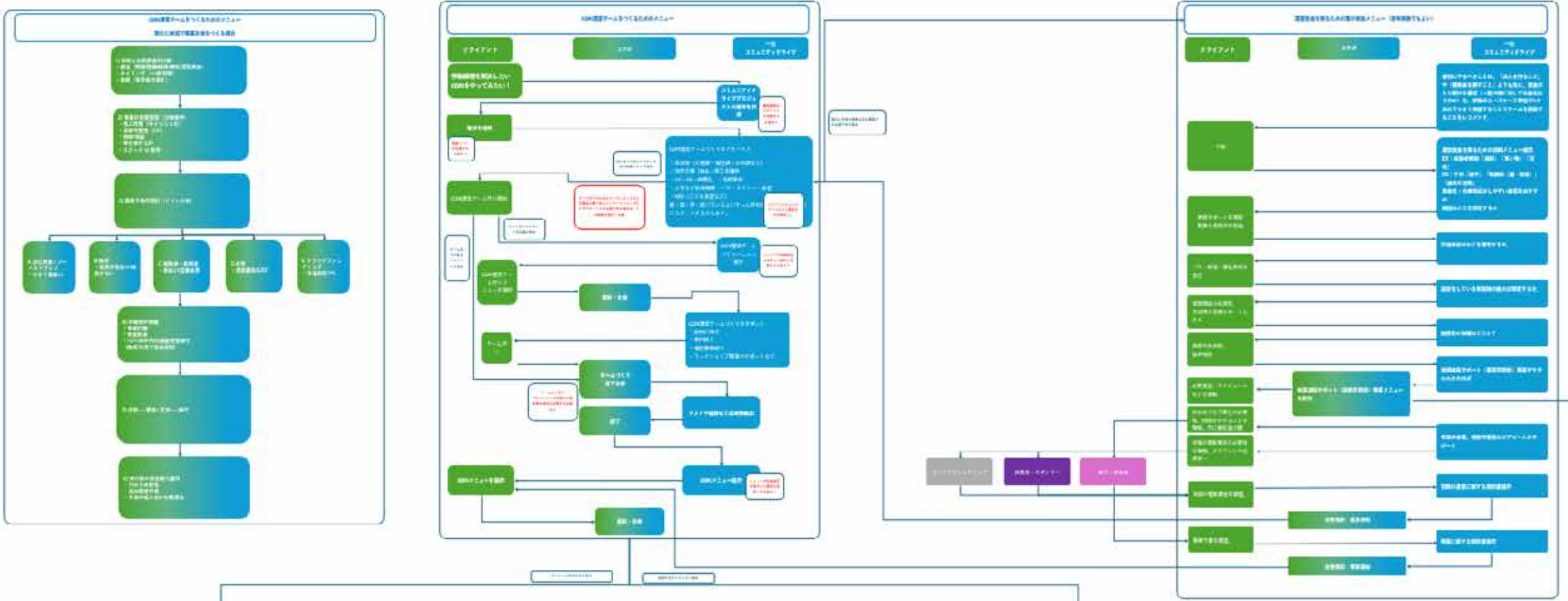
地域のマインドセット

地域のチームビルディング

相互信頼関係の基盤

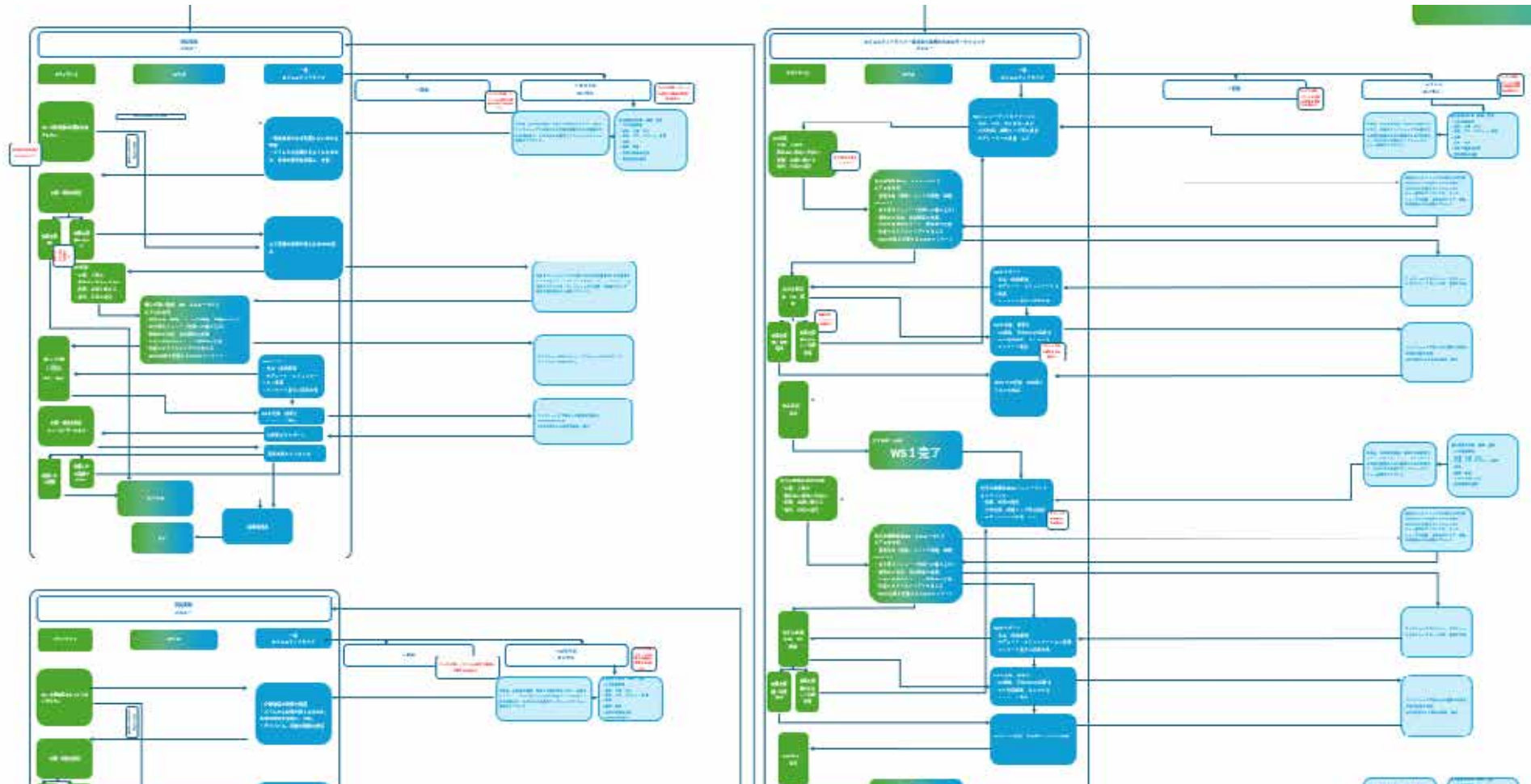


Community Drive プログラム



信頼関係をつくる対話の場づくり、ワークショップのデザイン、共有が必要な調査、その情報を可視化する方法、実証に必要な手続きなどをフローチャート化。

Community Drive プログラム



信頼醸成に必要な人材、場所、人数、時間、予算などを可視化
各地で展開できる手続きの進行表（＝プログラム）を作成中。

Community Drive プロジェクト

黒部・福山以外にも

様々な地域で 連携相談が進行中...！

広島県福山市
STEP 2 へ



富山県黒部市
STEP 3 へ



地域の移動はみんなで作る



*Community
Drive
Project*

The logo features the word "NIKKEN" in a large, bold, black, sans-serif font. Below it, the tagline "EXPERIENCE, INTEGRATED" is written in a smaller, all-caps, black, sans-serif font. The text is centered within a light gray rectangular area that has a faint, abstract pattern of dots and lines, resembling a molecular or network structure.

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED